

あたたかい子
かしこい子
たくましい子

学校だより

つよし

—第42号—

令和2年2月3日
平戸市立津吉小学校
文責 校長 田川定司

「節分」の日に 鬼のことを考える

今日2月3日は「節分」、そして明日4日は「立春」です。この節分は伝統行事として伝えられ、ほとんどの子供たちが御家庭や幼稚園・保育園で鬼(の面をかぶったお父さんや先生?)に、豆を投げつけた経験があることと思います。豆まきをするいわれは昔話にあるとおり、悪いことを鬼に見立て、豆をぶつけ追い払うということでしょう。日本に住む子供として、伝統行事に触れ、楽しみ、継承していくことは必要なことです。しかし、「この豆をぶつけられる鬼がかわいそうだから豆まきはしない」という子供がいたら皆様はいかが思われるでしょうか。「鬼=悪」と決めつけてよいのか。たくさんの人たちから豆をぶつけられる鬼に対して、素直にかわいそうと思える気持ちは大切です。

「泣いた赤鬼」など子供たちの読む本にも、見かけだけで人柄を決めつけられることから始まる悲哀が書かれています。やさしく、人間と友達になりたい赤鬼、その赤鬼を見かけから悪者と考える村人たち、赤鬼のために悪者を演じ旅に出る青鬼。最後に青鬼のことを思う赤鬼の気持ちは、子供たちに訴えるものがあります。

小学校低学年体育で行う手つなぎ鬼やこおり鬼などの「鬼遊び」。逃げる方と捕まえる方(鬼)に分かれたゲームです。体育ですので、将来のフットボールやラグビーにつながるゲームとしての動きだけではなく、チームで攻め方や捕まえ方を工夫する能力も養います。そして何より大切なのが、チームとして仲間を思いやる気持ちや、ゲームとして勝敗を素直に認める心を育てることです。素直にやさしさ・思いやりを示せる子供たち。そんな子供たちを育てる伝統行事や読書、学校教育、そして日常の遊びを改めて大切にしていきたいと思います。

給食集会

1月27日(月)に「給食集会」を実施しました。保健給食委員会の子供たちが、栄養に関することを発表やクイズで紹介しました。学校給食に携わる皆さんへお礼の手紙を書く活動もあり、自分たちの生活がたくさんの人に支えられていると感じ、感謝する気持ちを育てる大切な機会となりました。

入学説明会・一日入学

1月30日(木)に「入学説明会」を実施しました。次年度の入学予定者は18名です。保護者の皆様に説明会を実施している間、新入生たちは、「一日入学」として、5年生と1年生の計画のもと学校施設を見学したり、一緒にゲームをして遊んだり楽しいひと時を過ごしました。いつも甘えん坊の1年生も、かわいらしい新入生の前では、お兄さんお姉さんぶりを発揮し頑張っていました。

高校生ボランティア

1月27日(月)～2月7日(金)の2週間、猶興館高校3年生の橋村優花さんが、学校ボランティアとして体験学習に来ています。橋村さんには3年生を中心に、子供たちと関わってもらいます。将来は教員を目指している橋村さんですので、夢の実現に向けて、津吉小で有意義な体験を積んでほしいと期待しています。

裏も、ごらんください。

9歳息子に月300円のお小遣い、

3ヶ月間必死に貯めたお小遣いの「初めての使い道」に母涙

小学3年生になった9歳の息子が、ある日突然「そろそろ僕もお小遣いが欲しい！」と言ってきました。まわりのお友達がもらっているようで、自分も欲しいと思い始めたようです。

私は息子に言われるまで、お小遣いをあげるという意識がありませんでした。お金の計算ができるようになり、自分で買い物をする楽しみを持ちたい年齢になったのだとしみじみ…。

さて、そうすると月額の相場はいくらなのでしょう。小学生のお小遣い事情をリサーチしたところ、大体300～500円。なかには8歳で800円、9歳で900円という風に年齢で決めているママさんもいました。いくら渡すか迷いましたが、まずは300円からスタートすることにしました。

初めてお小遣いをもらったときの息子は、とっともうれしそうでした。たった300円ですが、初めて自由に使えるお金を手にしたのです。親に頼んで買ってもらわなくてもよい、自分だけのお金に大満足の様子。大事そうに貯金箱へ入れている姿が、かわいかったです。

そして私は息子に「これからはお店で、お菓子をおねだりされても買わないからね。自分のお小遣いで買いなさい」と約束を交わしました。心の中では300円なんて、すぐに使ってしまうだろうと思っていましたが、実際は異なりました。

息子はお店へ行っても「お金がもったいないから」と言ってお小遣いを使おうとしません。がんばってお金を貯めて、本当に買いたい物があるときに使いたいといいます。私は息子の9歳にして堅実な一面に感心してしまいました。

お小遣いを渡し始めて、3カ月が経過しました。いくら貯まったのか、ひと目で分かるようにお小遣い帳を書かせています。チラッと見たところ、金額はなんと900円。1円も使うことなく過ごしてきたようです。

よくここまで生活してきたな…と驚きました。初めてお小遣いを使う日はいつくるのだろうか。そう思っていた矢先の出来事でした。

息子が突然財布を持って「スーパーへ行ってくる！」と言い、家を飛び出して行ったのです。何か買いたい物があったのかな？と、なんとなくカレンダーに目をやると、今日は夫の誕生日だと気付きました。もしかして…

私の予感は的中です。息を切らしながらスーパーから帰ってきた息子の手には、小さなビニール袋が。中には夫の大好きなカフェオレが入っていました。「今日はお父さんの誕生日だから」と言う息子。この瞬間、私の目から涙があふれ出しました。

息子が初めてお小遣いを使ったのは、夫の誕生日でした。息子のやさしさに胸を打たれた出来事でした。夫も息子から初めてプレゼントをもらい、とっともうれしそうでした。

そして、この日を境に息子のお小遣いは、300円から500円にアップしたのです。私の心を動かした息子。実は戦略家かもしれません。